

足でボールを蹴らないサッカーが伝えること

神奈川県電動車椅子サッカー協会

（二社）日本障がい者サッカー連盟（JIFF）には、切断障害、精神障害、知的障害、電動車椅子、脳性麻痺、視覚障害、聴覚障害のある選手による7つのサッカー協会が登録されています。

その一つ「日本電動車椅子サッカー協会」は全国約30チームが加盟し、本県の「神奈川県電動車椅子サッカー協会」（以下、県協会）も所属しています。県大会、全国大会、日本代表として世界大会への出場など、個人、チームそれぞれの目標に向け、練習に励んでいます。

競技者は自立した歩行ができない、重度の障害のある方々ですが、電動車椅子のジョイスティック型のコントローラーを手やアゴで操



練習、試合は公開。日程はチームのホームページで確認できる【県内チーム】YOKOHAMA BayDream, Yokohama Crackers (横浜市・各チームHP有), 湘南イーグルス (平塚市・HP有), FC.WISHドリームス (厚木市・HP有) K-HOT (座間市)

作し、体育館のピッチを疾走します。ぶつかり合う音、見事なパスやゴール、守りも攻撃も担うゴールキーパーの動きなど、目を見張る攻防が繰り広げられます。

この7月、フロリダ州で開催された第3回FIPFAワールドカップに日本代表として出場の三上勇輝さんは、小学3年生で電動車椅子サッカーを始めました。「練習を重ねて、それを評価してもらうことは、サッカーだけでなく日々の生活での自信になります。性別を問わず、年齢の制限も無いこの競技で、さまざまな人と出会い、考え方や物事の見方が広がりました」とサッカーを通じて得た、自身の成長を話します。

しかし、使用する電動車椅子を



三上さん(Yokohama Crackers所属)は自身の強みを「フィジカルプレイでも外国の選手に負けない上体の強さと、視野の広さを生かしたディレクション」と分析

競技者自身で用意するなど、気軽に始められる制度・環境が整っていません。また、電動車椅子が施設の床や壁を傷めるなど誤解を受け、体育館の使用許可を得られなかったこともありました。

「電動車椅子サッカーの知名度を上げ、競技者を増やしたいと、養護学校や福祉関連のイベントなどでデモンストラーションや体験会を行っています。面白さを伝え、我々競技者と応援してくれる人とともに、この競技を盛り上げていきたいらと思います。また、家に閉じこもっている車椅子利用者も少なくありません。仲間に出会い、思い切り走り、自分を表現する場として、電動車椅子サッカーがあることも伝えたいです」と、県協会会長の藤間忠良さんが語ってくださいました。



県協会会長の藤間さん(湘南イーグルス所属)は「会社と家と時々病院という日々で、新しい居場所、仲間に出会いたいと思い、電動車椅子サッカーを始めました」と話す。所属チームのモットーは「みんなで楽しく」

（企画調整・情報提供担当）

医療・福祉界の健全発展に資することが私たちの使命です。

医療・福祉業界の皆さまが抱える様々な問題の解決に向けて、経営コンサルティング・税務会計・会計監査などのサービスを総合的に提供できる体制を整備しております。

- ◆ 福祉経営・医療経営コンサルティング
- ◆ 福祉施設・医療機関への人事コンサルティング
- ◆ 福祉施設・医療機関に特化した税務会計・代行
- ◆ 福祉施設の第三者評価事業 など

福祉施設の皆さまが地域のニーズに応え、時代や政策に適切に対応できるようご支援します。お気軽にご相談下さい。

～ おかげさまで 50周年 ～



川原経営グループ
株式会社川原経営総合センター
税理士法人川原経営



〒140-0001 東京都品川区北品川 4-7-35 御殿山トラストタワー9 階
TEL (03) 5422-7670 E-mail: info@kawahara-group.co.jp
URL: http://www.kawahara-group.co.jp/

「障害施設における人財マネジメント」セミナーを開催します！
2017年7月28日(金)13:30～17:00 参加お申込み ☎ 03-5422-7548 担当: 渡辺

「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています